



## 「誰かの役に立ちたい」

校長 渡崎 次郎

平成23年4月、16年間務めた佐世保北高校から長崎県教育庁高校教育課県立学校人事班に異動になった。県立学校人事班とは、県立学校教職員の採用、任免、分限、懲戒、服務等に関する業務を担当するところだ。私は、その存在すら知らなかった。

赴任して1週間ほどが過ぎ、かかってくる電話は誰よりも早く取れるようになった。しかし、自分で答えることができないので、誰かに代わってもらうしかなかった。自分の業務もわからないことが多すぎて、誰かに聞くしかなかった。しかし、みんな忙しくしているので、聞くタイミングがなかなか難しかった。ストレスがたまった。「転勤は最大の研修」と言うが、「転勤は最大のストレス」だと思った。佐世保北時代は、転勤してくる先生方が少しでも困らないようにと、駐車の方法や電話の取り方、弁当の注文の仕方まで書いた文書を作成した。「わからないことがあれば、何でも聞いて。」と言っていた自分は今、何もわからない。「俺は誰の役にも立っていないんじゃないか」と思った。

佐世保北から異動するとき、アパートを借りるか迷ったが、両親の希望もあり、実家から通うことにした。最初の1週間くらいは両親も喜び、「次郎が帰ってきたら元気になった。」と言ってくれた。しかし、生活のリズムが全く合わず、3週間たった頃に、「このままだとお母さんが倒れる。頼むから出て行ってくれ。」と父親に言われた。仕方がないので長崎大学の生協に行き、敷金、礼金なしの家賃2万7千円という破格の物件を見つけ、6年間お世話になった。ワンルームで狭かったが、一人で住むには十分だった。自称、低級霊能力者の私は、案の定、半年間ほど金縛りに苦しめられたが、次第に霊にも認められ、快適な一人暮らしを送ることができた。

教育庁の勤務時間は9時からだったが、一人暮らしをきっかけに、私は朝早く出勤することにした。毎朝6時50分頃に、本庁の守衛さんに別館の鍵をもらった。「早いですね。」と声をかけていただくこともあり、多くの守衛さんと仲良くなった。高校教育課と義務教育課の部屋を開け、ゴミを捨て、お湯を沸かした。そうこうしているうちに、2番目の先生が登庁し、朝一のコーヒーを飲んだ。その姿を見ながら、「もしかしたら俺は、この人の役には立っているかもしれない。」と思った。そう思った瞬間、何だか気持ちが少し楽になった。佐世保北時代、いろんな場面で生徒や保護者から、「ありがとうございました。」と言われることがあったが、生徒や保護者の役に立つのは教師として当たり前だと思っていた。そう、自分が誰かの役に立つことができるのは当たり前だと思っていた。でも、違った。「誰の役にも立っていない。」と感じたとき、人がどういう気持ちになるのかよくわかった。

令和6年3月1日。豊玉高校第51回卒業証書授与式の校長式辞の中で、私は卒業生7名一人一人との思い出を語らせてもらった。そして、LHRが終わった7名が校長室に来て、「ありがとうございました。」と言ってくれた時、「私も少しは役に立てたのかな。」と思うことができて、とても嬉しかった。

次年度、私は島原高校へ異動することになった。豊玉高校で学んだことを活かし、島原高校でも、誰かの役に立つ人になれるよう、精一杯、誠実に頑張っていこうと思う。

2年間という短い間でしたが、豊玉高校に関わる全ての皆さん、本当にお世話になりました。

ありがとうございました。豊玉高校、大好きです。今後とも、豊玉高校を、よろしくお願いします。



## 第51回卒業証書授与式

3月1日（金）、第51回卒業証書授与式を挙行了しました。7名という少なさを感じさせないほど一人一人に存在感があり、積極的に下級生を引っ張ってくれた3年生が、豊高を巣立って行きました。これまで地域の皆様にも大変お世話になりました。ありがとうございました。卒業生それぞれが、豊高で培ったことを糧に活躍してくれることを願っています。



## 今年度をもって、豊玉高校から離任される先生方

渡崎次郎校長先生  
島原高校へ

大久保慎也事務長先生  
島原工業高校へ

荒木健太郎先生  
西陵高校へ

佐藤大輝先生  
長崎東中学へ

江口 純先生  
クリエイティブ  
ディレクターへ



平山松美先生  
西彼農業高校へ

長町直幸先生  
対馬市社会福祉協議会へ



豊玉高校ホームページは  
こちらから



豊玉高校紹介動画は  
こちらから

